


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2025 年度 後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	中村 和貴	会員番号	0036922	
申請者の所属・職名	昭和医科大学 歯学部 口腔生化学講座 兼任講師・日本学術振興会 特別研究員 (PD)			
出席会議名	International Conference on Oral Mucosal Immunity and Microbiome			
発表論文タイトル	The periosteum provides a stromal defence against cancer invasion into the bone			

実施結果:

このたびは、日本免疫学会 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award (2025 年度後期) に選出していただき、誠に有難うございました。岸本 忠三先生、選考委員の先生方ならびにご推薦頂きました高柳広先生に厚く御礼申し上げます。

2025 年 10 月 12 日から 17 日にギリシャ・クレタ島にて開催された第 4 回 International Conference on Oral Mucosal Immunity and Microbiome に参加させて頂きました。本国際会議では、口腔粘膜免疫およびマイクロバイオーム研究の最前線に関する活発な議論が行われました。私は「Host defense against oral cancer invasion by the periosteum」と題し、大学院時代の研究成果 (Nakamura, Tsukasaki* et al., Nature 2024) について、口頭発表を行いました。

骨膜による腫瘍進展制御機構の解明に関する本研究は、多くの研究者の関心を集め、質疑応答やディスカッションを通じて、今後の発展可能性について多くの有益な示唆を得ることができました。

また、会期中には、各国の研究者と昼食や夕食の場を通じて交流を深める機会にも恵まれました。なかでも、Universitätsklinikum Erlangen (Germany) の研究者らと意見交換を行い、今後の共同研究の可能性を見据えた関係を構築することができました。

本国際会議は、私にとって初めての国際学会における英語での口頭発表の場でもありました。準備から発表、質疑応答に至る一連の経験を通じて、研究成果を国際社会に向けて明確に発信し、異なるバックグラウンドを持つ研究者と議論する力の重要性を強く実感いたしました。同時に、研究内容そのものだけでなく、その意義や新規性を的確に伝える表現力や構成力の重要性についても深く認識する機会となり、自身の研究姿勢や今後の課題を見つめ直す大きな転機となりました。

さらに、本会議で聴講した数多くの講演からは、口腔免疫研究の急速な発展と国際的な広がりを強く感じるとともに、自身の研究をより俯瞰的な視点で捉える重要性を学びました。これらの経験は、現在進めている研究の深化のみならず、将来的な研究テーマの設定や国際共同研究の構想にも大きく寄与するものと確信しております。

今回の国際学会参加を通じて得られた新たな着想、国際的な人的ネットワーク、そして研究に対する視野の広がりを最大限に活かし、今後は研究の質と幅のさらなる向上に努めてまいります。そして、基礎研究と臨床応用をつなぐ研究を推進し、国際的に存在感のある研究成果を発信できる研究者となるべく、より一層精進していく所存です。

末筆ながら、本アワードによる多大なるご支援に心より感謝申し上げますとともに、日頃より多大なご指導とご助言を賜っております塚崎 雅之先生 (昭和医科大学) に、深く御礼申し上げます。